

令和 7 年度

第 1 回

教育課程編成委員会報告書

令和 7 年 8 月 4 日

学校法人長野県理容美容学園

長野理容美容専門学校

## 第1回教育課程編成委員会 報告書

日時：令和7年8月4日(月)14:00～

場所：長野理容美容専門学校 校長室

出席者：SORA 伊藤先生      スタジオ エーワン 小出先生

松林校長・柏原教務主任・中澤主任

### 1、校長挨拶

お忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。本日も自己評価委員会、学校関係者委員会の報告と検討をお願いいたします。特にカリキュラムについては重要課題です。毎回、先生方におかれましては、様々な貴重なご意見頂戴し、大変ありがたく、今日も忌憚ないご意見よろしくお願いいたします。

### 2、自己評価委員会、学校関係者委員会報告

基準1から基準10までについてそれぞれの委員からのご意見を報告

- ・評価基準について検討していく必要がある
- ・教育理念は関わる方すべてに共有していくべきこと
- ・学校運営の教員補充や教員の指導力向上について引き続き強化していくべき項目である
- ・学生の現状と休退学に至るまでの状況
- ・給付型奨学金の対象者決定
- ・学生募集について

伊藤委員：教員の確保は大事な課題。現場で活躍する美容師や、在学中の学生に声掛けをしていくという方法もあるが、美容師を目指している中、教員にとつなげるのは難しいのかもしれない。しかし、そういう道もあると伝えていく必要がある。

松林校長：学園としても教員を充実させていく意向であるが、どんな人を採用していくべきか慎重に検討していく。

伊藤委員：先生の質＝学生の成果・学生募集。休退学者が出てしまうのは致し方ない状況であることは理解している。誠実に対応していても限界がある。学生にとって給付型奨学金はありがたい制度である。地元の良さ、地元の美容師とのかかわりなど、ブランディングしっかりと立てて広報につなげてほしい。デザイナーに入っていて、もっとあか抜けたデザインにする必要がある。そういう意味ではインスタは頑張っていると思う。

小出委員：学校の職員が増えるということは学生にも目が行き届きやすいということで、とても良いこと。多様性の時代であるため、様々な学生がいる中、やる気のある学生のやる気をそいでしまうことの内容にしていきたい。先生にも、生徒にも心の余裕が必要。魅力ある先生がそろっていれば学生募集にもつながる。また、SNSやインスタなどの講習はとても良い。先生が増えれば科目も増え幅広い知識や技術が修得できると思う。

中澤主任：様々な技術が必要とされる中、教え方にも個々の先生の特徴が出て良いことではあるが、しっかり決まったマニュアルも必要と考え、美容技術理論、文化論のマニュアルを改正している。また、カット技術において今までのマニュアルを見直ししていく予定。新任職員と共に、足りていない部分を補いながら令和7年度は行っている。

### 3、重点目標について

- ・重点目標と振り返り及び学生アンケートについて報告
- ・少しずつ定着しているが根気が必要
- ・響く指導につなげるためには信頼関係が大事
- ・信頼関係を築くためにはお互いに対してリスペクトが大事

小出委員：重点目標としている接客の基本は本当に大事。特に体力がなければ、気持ちも前向きになれない。普段からの体調管理が大事。また、挨拶が良くなった背景には、担任自らの明るい前向きな姿勢が学生に通じたからこそ。ため口＝親近感という学生に対して、社会に出たら通じないということを根気強く伝えていってほしい。また、美しい環境のために一緒に片付けるといふ姿勢は素晴らしい。お客様は入店前からよく見ている。行き届いたおしゃれな空間づくりは、選ばれる美容師になっていくはず。毎日取り組みで「気づく」ことのできる人に育てていってほしい。各科目のマニュアルを統一しようとする意識は素晴らしい。

伊藤委員：接客の基本の各項目は、本来であれば家庭教育で培われているもの。実際サロンでも技術の向上は繰り返し指導や練習の中で上達するが、基本的な本来持っているべき接客の考えがだいぶ変わってきているので、その教育が難しい。「相手を認める」「ため口と親近感の違い」「指導とハラスメントの違い」など伝えていくのが難しい。人間力・・・ビジュアル→変えられるのは早い。人間性・・・本来の持っている性格→変えづらい

学生も先生も大事な財産。新しい先生が入った際にも、マニュアル作りは大事。

- ・コンテスト結果の報告

中澤主任：アップコンテスターでは4名が出場し、1年生1名全国大会へ、3名敢闘賞を受賞。2年生2名からのスタートだったが、あまり馬が合わなかったが、1年生2名が入ったことで4人の練習が良い方向に流れた。マイナスな事を言わない、励ましあう、みんなで協力。外部講師の協力や他の職員の協力もあり、みんなで得た結果と受け止めている。

### 4、カリキュラムについて

- ・1学期の授業内容の報告と、今後の授業内容の確認
- ・学生アンケートより、1学期の授業の振り返り

伊藤委員：外来カットの講師の技術統一がされた様子。板書の統一のためにパワーポイントで統一していくとよいかもしれない。

小出委員：シャンプーの授業が楽しくて良いこと。シャンプーは即戦力に繋がる。お通しからカウンセリング、シャンプー技術。ドライセット、クローズまでをやれるとよいと思う。

## 5、学生の様子

中澤主任：4月当初から、学校生活不適合の学生に対し、根気強く担任は指導してきた。1学期終わりに来てようやく落ち着いてきた様子。新任職員3名も担任としてしっかりやっ払いこうと頑張っている。フォローしていくので失敗を恐れず取り組んでいってほしいと思っている。こちら側も「わかるだろう。」「見ているだろう。」という考えで始めていたがなるべく「見える化」していきたい。学生の学力低下とコミュニケーション能力の低下が心配である。「思いやる気持ち」に欠けているため、1年生から様々な学生の中で仲たがいしている。また反抗する学生、逆に依存する学生、発達障害や精神障害のグレーゾーンの学生も見受けられ、今後も細やかな指導が必要と考えている。

小出委員：スマホをいじっているのは美容学生だけではない。スマホで勉強がままならないという話はよく聞く。再試者多いということであるが、次につながれば良い。先生も間違ったことは間違いだと、「相手を思いやる」「相手を認める」という思いを忘れずにいて、負けないで貫き通してほしい。

伊藤委員：多感な時期にコロナ禍であったことも要因と思う。人と関わっていない分人に対しての「感謝」を持つ機会が少なかった。ヘアショーや各種行事で「感謝」の気持ちが芽生えることが多いと思う。特にコンテストはよい機会。そういった意味でも、挑戦したいと思うことにチャレンジさせていってほしい。

松林校長：国家試験が心配な学年であるため、この後も気を引き締めて協力し合いながら取り組んでいきたい。

## 6、業界から

伊藤委員：人間教育、性格的な部分はどこまで入っていったらよいのか。カウンセリングの段階で、お客様の想いをくみ取れない。技術の良し悪しではなく、カウンセリングでお客様のつく人と、つかない人の差がつく。お客様がつかない人はあまり気にしていない人もいる。カウンセリングに強い業者もいるので、学生のうちにカウンセリングについて学ぶとよいと思う。

小出委員：美容組合ではインターンシップに力を入れている。中学生の職場体験が3校、2校の高校生からサロン体験のご依頼があった。

伊藤委員：ナガコレでは、数校サロン実習を受け入れた。

柏原：是非その際には、パンフレットをお渡しいただき、学校のお話もしていただけるとありがたい。

小出委員：美容組合と美容学生でヘアショーのコラボも実施できるとよいのでは。

次回令和8年2月24日(火)14:00～